

○紹介 まちづくり関連の団体とその動き

創刊号(平成24年9月15日)

広島を良くしようと日々努力している人たちを応援するために、まちづくりに寄与している団体等を紹介していきたい。

・NPO法人アートプラットホームGの紹介

NPO法人アートプラットホームGは2009年10月に設立。中区上八丁掘にあるギャラリーGの運営を中心として、広島市内でアート系のイベントを実施。

ギャラリーGでは、多ジャンルの展覧会を週代わりで行う。貸しギャラリーとしての運営の他に年10回ほど企画展を実施している。企画展は広島で活動している若手作家による個展や広島ゆかりの実力のあるベテラン作家を取り上げる展示など。

市民、行政、商店街、企業などとの連携により、広島の芸術文化を通じたまちづくり、地域の活性化推進を目指す。2011年10月～翌年3月には広島市より旧日本銀行広島支店における市民提案による文化イベント実施事業の委託を受け、『Hiroshima EXsite』を大きなテーマとして月に一回、旧日本銀行広島支店にて文化イベントコーディネートや企画展を実施。広島アイデアコンペの活動や意義深さに感銘を受け、その第1弾として「広島市中央公園アイデアコンペ作品展示」を開催する。

『Hiroshima EXsite』は、「超える」「広がる」という意味を持つ“EX”をキーワードとし、旧日銀広島支店を“EX”する「場」として、最新の文化活動を多角的に展開させる。展示・上演・上映・講演・ワークショップ等、既成概念を超えて、多元的な視点から文化をキャッチする場所に変えていこうという革新的な試みである。

“EXsite!”(エクサイト)…さまざまな文化コンテンツが協働し共振する場

“EXsite!”(エクサイト)…表現することを通じた学びと交流、創発の場

(ギャラリーG)

まちづくりをハード面だけでなく、文化・芸術といった幅広い面からチャレンジしていこうというNPO法人アートプラットホームGの活動は興味深い。



ギャラリーG全景
(アートプラットホームG)



アイデアコンペ作品展示会

2号(平成24年11月15日)

・アーキウォーク広島の紹介

アーキウォーク広島は、建築好きが集まった市民組織です。広島の建築の魅力を内外へ発信することで、まちの活性化へ貢献することを目指しています。具体的な活動は以下の通りです。

①建築公開イベントの開催

普段入れない建物を特別に公開いただき、見学するイベントです。昨年度は11箇所で開催イベントを実施し、特に8月の京橋会館見学会には延べ1400人が訪れ、大きな反響をよびました。

②建築ガイドブックの発行

2012年10月にガイドブック「アーキマップ広島」を出版しました。全国へ向けた情報発信を行うと同時に、本の販売により公益的活動に必要な経費をまかなうことも目的としています。

③セミナーの開催

美術館や公民館などとのコラボレーションによる一般向けセミナーを多数開催しています。



建築公開イベントの案内



京橋会館見学会の状況
(アーキウォーク広島のHPより)

④情報発信

新聞連載、ラジオ出演、写真展開催など、様々な方法で広島の建築についての情報発信をしています。また、知られざる優れた建築を発掘することも活動の一環として行っています。

(アーキウォーク広島：ホームページ <http://www.oa-hiroshima.org/>)

広く市民に建築を理解してもらうことにより、広島のまちを良くしていこうという「アーキウォーク広島」の活動にこれからも注目していきたい。

第3号(平成25年1月15日)

・ひろしまジン大学の紹介

ひろしまジン大学は2010年5月に開校した生涯学習、街づくりを主な目的とした特定非営利活動法人です。

「広島」全域をまるごと「大学」に見立て、そこに暮らす人みんなが「先生」であり、みんなが「学生」というコンセプトで取り組んでいます。

これまで、「本通り商店街の歴史を学ぶ」、「県北の雪山体験」、「正しい広島弁講座」、「街のユニバーサルデザインを探る」など、広島の歴史、自然、文化、社会課題などをコンテンツとしたオリジナルティ溢れる「授業」を毎月開催。

地域に根差した各分野のエキスパートを先生に迎え、広島の様々な場所で、人と人、人と街、人と地域の絆を深め、広島の魅力を再発見する事業を進めています。

開校後、約2年半で実施した授業は約140コマ。学生登録者は20代～30代を中心に1,600名を越えました。

入学、授業は原則無料。ホームページで学生登録頂くとどなたでも自由に授業に参加できます。

▼ホーム <http://hirojin.univnet.jp>

(※学校教育法上で定められた正規の大学ではありません)

広島をまるごとキャンパスとして、誰もが先生や学生になれるという発想がユニークだ。学長を中心に若い人たちが頑張っている姿は頼もしい。



パンフレット



授業の状況

(ひろしまジン大学HPより)

第4号(平成25年3月15日)

・セトラひろしまの紹介

NPO法人セトラひろしまは、市民と商店街(*広島市中央部商店街振興組合連合会)が連携し、市民の知恵や力、人材を積極的に取り入れながら、広島市中央部地域(センターエリア=「セトラ」)の魅力的な賑わいの創出、さらなる発展と活性化を目指し、広島市中央部の「まちづくり」を目的とした様々な活動を行っています。

主な活動としては、えべっさん、アリスガーデンパフォーマンス広場AH!、インディーズの祭典“INDIKET”など、街の感性価値を形成する市民参加の祭りやイベントの開催。アリスガーデン、並木通り、袋町公園など公共空間のお花や緑の維持管理、美化・清掃活動。

中央公園での冒険遊び場づくり活動（もとまち自遊ひろば）。岡本太郎「明日の神話」広島誘致活動、HIROSHIMA 1958「エマニュエル・リヴァの広島」展、「新藤兼人 百年の軌跡」など、様々な文化プロジェクトの事務局業務。

また、「広島文化会議準備会」のメンバーとして、旧広島市民球場跡地を起点とした、新たな市民文化創造の場=『明日の広場』の形成と、広島におけるグローバルな文化・芸術祭の開催を提唱する活動を行っています



袋町公園花植え



会場盛り上がり

▼ホームページ : <http://www.cetra.jp/npo/>

本当に幅広い活動を通して、ひろしまのまちに元気と活力をもたらしている。他の地域も触発されて、ひろしま全体が活気づくことを願う。

第5号(平成25年5月15日)

・雁木組の紹介

NPO法人雁木組は、川に親しむ暮らしを取り戻すことをめざして、雁木（水辺に通じる階段）を利用した川の水上タクシー（雁木タクシー）を運航しています。船でまちなかを往来する楽しさを多くの市民や来訪者に知ってもらい、新しい広島の魅力づくりへとつなげています。

（主な活動内容）

1. 水上タクシーは、ウィークデイは予約対応、土・日・祝日は主に平和公園の親水テラスで待機運行をしています。
2. 専門家の協力のもとに雁木の歴史性を検証する活動を行っています。雁木組の調査がきっかけで京橋川の雁木群が選奨土木遺産に指定されました。
3. 川沿いの町内会や企業と一緒に、雁木を大事にし地区の賑わいづくりに貢献するイベント（雁木クリスマス&水辺ジャズ、京橋周辺地区）を実施したり、雁木タクシーの運航を通して地区のまちづくりイベント（猿猴川かっぱ祭り、砂持加勢祭りなど）に協力することでまちづくり活動を応援しています。
4. 潮汐（満潮・干潮）による水位変動を自動計算し、各雁木の利用時間を計算するサービスを行っています。
5. 乗り場を安全に維持するために、学生・会員・雁木メイトを始め、沢山の仲間で雁木を掃除しています。
6. 修学旅行生によるとうろう流し体験ツアー、縮景園直接乗入便、歴史遺産巡りなど雁木タクシーならではの水の都観光を提供しています。個性的な橋や、都心とは思えないほど自然豊かな中洲など、川の上でしか味わえない魅力を案内して船で散策する広島の新しい観光ルートを提案します。



▼ホームページ : <http://www.gangi.jp/>

水の都ひろしまを象徴する雁木を活かした水上タクシーで街の魅力を発信している。着眼点がすばらしく、雁木組にならって「ひろしまの魅力」を発掘していくグループの誕生を期待したい。

・ほのぼの広島会の紹介

体の不自由な人たちが安心して気楽に外出できる街「ほのぼの都市」を作るために地道に活動している勤労者向けのボランティア「ほのぼの広島会」です。

平成9年11月に発足し、以後、毎月例会を開催しています。余暇を活かして、無理なく楽しくやろうをモットーに市の社会福祉協議会等との連携をとりながら、広島市民のやさしさ向上のためのイベント等を実施しています。

(主な活動内容)

1. 『バリアフリーチェック』活動

ハートビル法・交通バリアフリー法などに照らし合わせた調査を実施し、改善提案を管理者やマスコミに提出して、早期に改善してもらいます。



2. 『ほのぼの安心マップ』活動

広島市繁華街で、自由に使える障害者用トイレの有る建物を探し、場所や使用可能時間などを明記した地図を作り無料配布します。

3. 『ほのぼの車いすツアー』活動

しまなみ海道、秋の宮島、買い物ツアー、入浴ツアー、錦帯橋、アクアスなど、障がい者と一緒に、楽しい車いすツアーを定期的に開催します。

4. 『アルミ空き缶・ペットボトル蓋・古切手等収集』活動

アルミ空き缶とペットボトルの蓋を収集し、施設などに車いすなどを寄贈し感謝状を受領します。

▼ホームページ：<http://honobono-hiroshimakai.com/>

○広島菓子博に対して

『広島菓子博』のような、全ての人に開放すべき会場で、①電動車いすの使用禁止、②ベビーカーの使用禁止、等は、前世紀の古い思想だと思います。しかも今の日本は、高齢者が増え、子供を増やしたい状態ですから、①電動車いすの歓迎、②ベビーカーの歓迎が、あるべき姿だと思います。『広島菓子博』実行委員長他関係者達は、時代遅れ思想を大いに反省すべきです。

次回開催地では、歓迎への対策を万全にして事故の無いようにして、全ての人々が安心して楽しめるように工夫すべきです。同様な改善は、『広島フラワーフェスティバル』その他の『祭』でも言えます。手押し車いす、電動車いす、ベビーカー、白杖使用者、等が安心して楽しめる『フェスティバル』や『祭』について知恵を絞るべきで、こう言う時代が変わったことを強く認識すべきです。

『広島菓子博事件』のお陰で『広島フラワーフェスティバル』では、今年から大きく前進しました。来年は更に前進することを期待します。
(ほのぼの広島会 田中 聡)

・ **ポップラ・ペアレンツ・クラブ**の紹介

2004年の台風18号で倒れた基町環境護岸のポプラの木の再生を応援する企業と市民グループと有志が、2006年7月にポップラ・ペアレンツ・クラブ(略称:PPC)を結成しました。PPCは基町ポップラ通り(基町環境護岸の愛称)の清掃、除草、雁木掃除などのお世話をする団体です。管理者、広島市と協定を結び、協力しながら、もっと楽しく、もっと魅力的な基町ポップラ通りを目指しています。



草刈り風景

(主な活動内容)

1. 毎月第4土曜日の午後、定例会を開催

シンボルツリーのポプラの周辺の草刈り(夏は朝から活動)と緑地清掃。誰でも参加できます。いっしょに心地よい汗を流しませんか。草刈り後のビールは旨いのだ!

2. 夏に野外上映会を開催

夏休みに家族で映画を見て、自然や命に思いを馳せてほしいと願い野外上映会を開催しています。

2007年に佐々部清監督の映画『夕風の街 桜の国』を皮切りに、『河童のクゥと夏休み』『小惑星探査機はやぶさの冒険』などを上映し、この夏は6回目。50人のボランティア・スタッフがスクリーンやテントを立て、杭を打って会場をリボンで仕切り、キャンドルを灯して、周辺警備もします。すべてがボランティアによる手作りです。

今年は宮沢賢治没後80年に当たり、賢治さんの作品『セロ弾きのゴーシュ』のアニメーション映画を鑑賞しました。上映前には、切り絵作家で花巻出身の吉田路子さんの語りによる「双子の星」のお話を聞き、参加者とともに東北へ思いを寄せました。

▼ホームページ: <http://poplaparentsclub.web.fc2.com/>



野外上映会
(ポップラ劇場 2013)

○みんなが気持ちよく利用するために

この河岸緑地はポップラ(ポプラの木のこと)を応援する人たちばかりではありません。ニセアカシア・ファンはその下に花を植え、水やりなど毎日、手入れをして、花壇を設けることで「ゴミの後始末」を呼び掛けています。

結成以来かれこれ6年になりますが、活動を通して「草の高さに合わせてゴミが捨てられる」「除草後はポイ捨てタバコが目立つ」「きれいな場所を人は求める」というように、公共マナーについて感じる人が多いです。

この水辺は野鳥が訪れ、自然を満喫できる一方、水飲み場も駐車場もありません。便利な場所ではないけれど、人が集まり、川を見て1日過ごし、夕日を眺めながら犬と散歩します。バーベキューのグループは、テントを張りピクニックを楽しみ、残念ですが、炭の破片を置いていってしまいます。その炭をペット犬が食べてお腹をこわします。

公共空間は誰のものでもない、みんなのもの。皆で楽しく使って、皆で気持ちよく掃除して、元の状態に戻すことを心がけたいと思います。

(ポップラ・ペアレンツ・クラブ 隆杉純子)

・中央公園冒険広場もとまち自遊ひろばの紹介

子供が健やかに成長し、自主性や創造性を身につけていくうえで、遊びは大切な要素である。広島市こども未来局が主催する「もとまち自遊ひろば」は「子供の発想と創造力で自由に遊べるひろば」をモットーに運営されている。

原則第2・4週の日曜日に中央公園芝生広場の西側の一角で開催されているので、10月27日に訪れてみた。

当日はフードフェスタ他、イベントにより中央公園界隈は人で溢れる中、子どもたち77名が参加し、いつも通り穏やかな楽しい雰囲気に満ちていた。

遊び場に置いてあるロープ、シート、タイヤ、段ボールなどの材料と金槌、のこぎり等の道具を使って、自分たちで工夫しながら遊んでいる。もちろん世話をするサポーター「ゆうえん隊」や保護者が見守っている。

木の間にロープを渡して作ったブランコやハンモックで遊んだり、タイヤを使ってロープを滑っていた。親子で木工事に熱中しているグループもいる。新規参加者は親子で遊んでいるが、常連の子供たちがうまくリードしてグループ遊びに発展するという。

スタートして3年ほどしか経っておらず、このひろばの存在はまだあまり知られていない。「ここで実績を積み、サポーターを養成して、各地に展開できるようにしたい」とは石丸氏（セトラひろしま）の談。遠くから来ている人も多く、身近な場所に欲しいという要望も強いようだ。

今ある児童公園は規制が多くて子供たちが自由に遊べない。地域のサポーターが見守る中では、もっと自由に遊ばせてもよいのではないか。子供は遊びの天才である。このもとまち自遊ひろばが市民に認知され、輪が広がっていくことを期待する。

(編集委員 瀧口信二)



もとまち自遊ひろば



▼ホームページ：<http://boukenasobiba.blog.fc2.com/>

○私たちの遊び場づくりの活動

受付では初めて来た親へ、「手出し口出しせず大らかに見守りを。」と伝える。たいていの子どもは、ぱあっと表情が変わる(ニヤッとする子も)。「多少のケガはします。でも、成長の糧となります。」と理解を得る。そして、「いってらっしゃい！」と子どもたちを送り出すと、心が解放されたかのようにひろばへ駆け出し、遊びへ溶け込んでいく。ここで見せる子どもたちの表情は、“本来の子どもたちの姿”を大きな説得力をもって大人たちに訴えかけてくれる。私たちの遊び場づくりの活動は、そういう活動である。失われつつある遊びの三間(時間、場所、仲間)を子どもたちへ取り戻し、大人たちへその大切さを伝えていくこと。子どもが子どもらしくいられる場所を、多くの大人たちとともに創りだしていきたい。

(遊援隊 六百田裕子)